

新しい年を迎えて



高山市議会議長 ^{みぞ} ^{ばた} ^{じん} ^{いち} ^{ろう} 溝 端 甚 一 郎

皆様におかれましては、平成31年の輝かしい新春をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、日本国中で地震・豪雨・台風などの自然災害により、多くの尊い人命が失われ、家屋等が大きな被害を受けました。高山市においても昨年の7月豪雨や台風21号などによる被害は甚大なものでありました。一時的に国内外を問わず観光客の入り込みが激減し、観光関連産業への影響が懸念されましたが、幸いにして徐々に回復し、まちを散策する観光客の姿も元の姿を取り戻しつつあります。

こうしたなか、飛驒の玄関口として高山駅東西駅前広場が完成し、広く使いやすくなったことで多くの市民の皆様や観光客の方々に安心して利用していただけるようになりました。今後、集いや交流の場としても活用が期待されるところです。さらに、飛驒高山まちの体験交流館が古い町並にオープンしました。飛驒高山まちの博物館と一体となって地域活性化の拠点となり、文化の伝承や体験交流などが一層図られることを心よりご期待申し上げます。

今年、東海北陸自動車道四車線化が飛驒清見インターチェンジまで完成するほか五色ヶ原の森の新しいルートオープン、官民協働して取り組まれる3年に1度の飛驒高山文化芸術祭の開催などが予定されており、地域の魅力の再発見や地域への愛着と誇りを育む取り組みも進められます。高山の素晴らしさのPRに改めて努めてまいりたいと考えています。

また、高山市には、緑豊かな美しい自然と先人から受け継いだ伝統文化が脈々と息づき、歴史的風致とおもて

なしの心が深く結び付いて、独特の風情を醸し出しております。こうした先人の方々が築き上げた貴重な財産を活かしつつ、将来にわたって引き継いでいかなければなりません。

さて、市議会では今年の4月に改選を迎え、新しい体制となります。合併して14年目を迎えますが、急速に進行する少子高齢化や人口減少社会のなかで地域コミュニティの希薄化や若者の都会への流出、人手不足による事業承継問題など、高山地域、支所地域に限らないこれらの課題に対して対策を講じ、疲弊した地域の再興を図ることが求められております。

高山市議会といたしましても、市民福祉の向上を図るため、市民の皆様との協働による持続可能なまちづくりが着実に進むよう、そして信頼に込められるよう、積極的に地域に向き、市民の皆様のお声をお聴きし、そのお声を市政運営に結び付けるべく、その責務を果たしてまいります。

また、二元代表制の一翼を担う議会は広大な市域におけるまちづくりの責任ある意思決定機関として、議員相互の議論を深めて合意形成を図り、議会基本条例に則ったわかりやすく開かれた議会に議員一丸となって取り組んでまいりますので、市民の皆様方の格別のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成から新しい時代を迎えるにあたり、市民の皆様にとつて幸せに満ちた実り多い一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。